



2024年1月26日

各 位

会社名 パ ス 株 式 会 社
代表者名 代表取締役 高 橋 勇 造
(コード番号：3840 東証スタンダード市場)
問合せ先 管理本部 星 淳 行
TEL：03-6823-6664 (代表)

第12回新株予約権の資金用途変更に関するお知らせ

当社は、本日の取締役会において、2022年4月8日付「第三者割当による新株式及び第12回新株予約権の発行並びに主要株主及び主要株主である筆頭株主の異動に関するお知らせ」（以下「本新株予約権」といいます。）にて開示いたしました資金用途につきまして、以下のとおり一部変更することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 変更理由

当社は、2023年1月31日付けで再生医療関連事業を営む株式会社RMDCを完全子会社化しております。また2023年11月17日付「連結子会社における固定資産（建物等）の取得に関するお知らせ」にてお知らせしたとおり、株式会社RMDCにおいて、再生医療関連事業の拡大に向け、新たに細胞培養加工施設を建設することとなりました。これにより設備投資等の資金も必要となったことから、本新株予約権の充当状況を確認し資金用途を改めて再検討いたしました。

「2. 資金用途の内容」の＜変更前＞に記載の、②新商品開発、仕入資金及びプロモーション費に関しては、＜変更前＞の表に記載のとおり430百万円を充当予定でありましたが、コスメ事業の回復が鈍く商品製造計画の変更に伴う商品在庫を見直すことで同＜変更後＞②に記載のとおり減少させていただきます。

同＜変更前＞③サステイナブル事業は、当社グループの成長領域に位置付けており、美と健康に関わる微細藻類由来の希少原料である「フコキサンチン」の研究開発と販売を行なっております。微細藻類培養時の光合成によりCO₂（二酸化炭素）と水から酸素を発生させることに着目し、微細藻類によるCO₂削減を目的とした培養設備の投資を行い、CO₂削減のバイオリクターとして企業に提供しております。

また、培養した微細藻類による牛のゲップ由来メタン抑制効果解明の研究を進めている中、海藻である「カギケノリ」を牛の飼料に数%混ぜて与えることで、牛の消化過程で発生するメタンガスを最

大 98%減少させることが確認できました。そこで「カギケノリ」による牛のゲップ由来メタンの削減を目指す「The Blue COWbon Project」を立ち上げ、「カギケノリ」の海洋養殖、陸上養殖を行い、「カギケノリ」を使った GHG 削減効果のある飼料添加物を開発し、世界的な課題となっているカーボンニュートラルに貢献してまいりたいと考えております。

しかしながら、継続的な営業活動の結果、一定の認知度を得て企業等との新たな取引は開始されておりますが、事業化が想定より遅れ、依然として営業損失が継続している状況であります。そのような状況ではあるものの、新たな産業分野の開拓を積極的に進めるべく、優秀な人材の確保、新規受注対応などを行っていくための運転資金として 100 百万円が必要であるため、同<変更後>③に記載のとおり運転資金を新たに用途に追加いたしました。

なお、新株予約権の行使状況により想定どりの資金調達ができなかった場合には、当該運転資金は手元資金及び借入を行い充当する予定であります。

当社は、2022 年 12 月 20 日付「簡易株式交換による株式会社 RMD C の完全子会社化に関するお知らせ」のとおり、2023 年 1 月 31 日付で簡易株式交換により再生医療事業を営む株式会社 RMD C を完全子会社化いたしました。また併せて、2023 年 3 月 30 日付「連結子会社への事業譲渡に関するお知らせ」のとおり、主たる事業である化粧品を基軸とした事業の見直しや組織再編を進めた結果、当社の運営するコスメ事業及び 100%子会社である株式会社アルヌールが運営する再生医療関連事業を株式会社 RMD C に譲渡いたしました。

新型コロナウイルス感染症の規制緩和により、訪日外国人が急増している中、インバウンドによる再生医療の需要も高まってきております。日本国内では、その需要に対応すべく再生医療の導入を実施する医療機関も増加しており、インバウンドによる再生医療による治療件数も増加しておりますが、細胞加工事業者数が比例して増加していないのが現状です。そこで、株式会社 RMD C では、新たに細胞培養加工施設を建設し事業拡大を目指すため、同<変更前>④再生医療関連事業への設備投資及び自動細胞培養装置開発資金に関しては、170 百万円から<変更後>④に記載のとおり増額しております。

また、再生医療関連事業を営む株式会社 RMD C ですが、細胞培養加工施設を新設することにより再生医療実施医療機関より細胞加工業務を請け負う等、更なる事業拡大に向け経営基盤を強化すべく、同<変更後>⑤に記載のとおり、新たに「株式会社 RMD C への増資資金」として 60 百万円を資金用途に追加いたしました。

同<変更前>⑤に記載の資本業務提携先への出資金、M&A 資金については、当初 200 百万円の充当を予定していたものの、株式会社 RMD C を株式交換により完全子会社化したこともあり、現時点では既存事業の安定的な拡大に充当することが先決と考え、同<変更後>⑥に記載のとおり減少いたしました。

2. 資金用途の内容

資金用途の変更内容は、下記のとおりです。なお、変更箇所は下線で示しております。

<変更前>

<本新株予約権の発行により調達する資金の具体的な使途> 単位：百万円

具体的な使途	金額	支出予定時期
②新商品開発、仕入資金及びプロモーション費	430	2022年4月～2025年3月
③サステイナブル事業への設備投資資金	200	2022年7月～2025年3月
④再生医療関連事業への設備投資及び自動細胞培養装置開発資金	170	2022年4月～2025年3月
⑤資本業務提携先への出資金、M&A資金	200	2022年10月～2025年3月
合計	1,000	

<変更後>

<本新株予約権の発行により調達する資金の具体的な使途> 単位：百万円

※カッコ内は2024年1月26日までの充当金額

具体的な使途	金額 (充当金額)	支出予定時期
②新商品開発、仕入資金及びプロモーション費	<u>400</u> (252)	2022年4月～2025年3月
③サステイナブル事業への設備投資及び運転資金	200 (50)	2022年7月～2025年3月
④再生医療関連事業への設備投資及び自動細胞培養装置開発資金	<u>290</u> (99)	2022年4月～2025年3月
⑤株式会社RMDCへの増資資金	<u>60</u>	2024年1月～2024年3月
⑥資本業務提携先への出資金、M&A資金	<u>50</u> (0)	2022年10月～2025年3月
合計	1,000 (401)	

3. 今後の見通し

第12回新株予約権の資金使途の変更が、2024年3月期の当社の業績に与える影響は軽微と考えておりますが、今後の業績に与える影響について開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以上